



語り部通信

令和4年夏号（通算第33号）



語り部通信の配布先が広がりました！ 語り部をよろしくお願ひします！

県内のコロナ新規感染者の数が、100名±30名程度に落ち着いてきました。あと少しの我慢です。桜の季節には福井城址周辺のガイドが始まり、北ノ庄城址資料館のガイドも5月から再開されました。コロナは徐々に落ち着いてきましたが、東ヨーロッパ方面がとても熱いですね。権威主義の国グループと民主主義の国グループの争いになってきました。こう言う状況になると由利公正の議事之体大意を思い出します。「万機公論に決し、私に論ずるなかれ」を思い出します。この戦争は「私」のためではないのか？「公（国民）」のためになっているのか？福井の地が生んだ偉人の「ものの考え方の基本」のすばらしさをあらためて感じています。

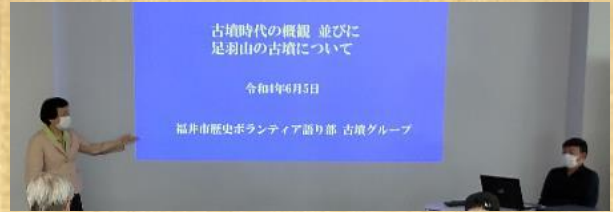
全体会（総会）開かれる 5月21日（土）

令和2年、3年の5月恒例の全体会は残念ながら開かれませんでした。3年ぶりです。皆さんのお元氣な姿を久しぶりに拝見しました。現在の会員は67名です。昨年度は7名の新入会員がありました。

さて、活動ですが、ご案内したお客様の数は、コロナ禍前の15%まで落ち込みました。その空いた時間を研修などに力を入れました。

今年は、小学校への出前講座等に、力を入れることになりました。語り部を派遣して、福井の歴史を分かりやすく伝えることです。分かりやすくは難しいですよ。

しかし、子供の時から福井の歴史を学んでもらえると、「福井」がズシリと心に残ります。



古墳についての勉強会の成果発表会 6月5日(日)

「古墳時代と足羽山古墳について」の内容の会員向けの講座に、32名が集まりました。大変わかりやすい話で、プレゼンには、時々現れるアニメなど、工夫がいっぱいちりばめられていました。市民の方にも、是非、聞いていただきたいですね。

グループ勉強会頑張ってます！

コロナ禍で語り部の活動も休止の連続です。自粛が続く中でも何か前向きの活動は無いものかと、グループ勉強会を考えました。「大丈夫かな？」の心配をして始まりましたが、皆さんとっても熱心に活動されていますよ！

- ◆ 福井の偉人
- ◆ 越前の伝説
- ◆ 福井城址を極める
- ◆ 語り部と歩く街歩きのコース
- ◆ 古墳について
- ◆ 街道について
- ◆ 福井藩士について
- ◆ 福井市の山城
- ◆ 朝倉氏遺跡



一乗谷朝倉氏遺跡研究会

グループ活動の一つです。毎月一回勉強会を開いていますが、毎回、データがぎっしり詰まった資料が配られます。

10月の一乗谷朝倉氏遺跡博物館の開館に向けて、力が入っています。

まち歩き研修 5月11日(水) ：福井駅から順化地区を歩く：

3月16日に予定していた研修会が、ようやく開催できました。参加者は23名です。ガイドは、3人。その内「語り部」研修会のガイドが、初めての方がお二人いましたが、準備もしっかりできていて、楽しい案内でした。

(しらかわしずか)

コースの中に白川静生誕之地の碑がありました。「遊」は白川先生の説では、吹き流しを持つ人を表しているそうです。そして、遊ぶという行動は、神様が自由に動き回ることを表し、後に人間が自由に行動して、楽しむという意味になったそうです。



福井は歴史の宝庫

4月29日に広島から来られた方を案内しました。幕末の頃の、「物産会所」に興味をお持ちの方です。当日は、由利公正旧宅跡、旧江守商事、セーレン、九十九橋北詰め、グリフィス館などを案内しました。ところが、二日後の4月1日に北ノ庄資料館で、また、お会いしました。丸3日福井に滞在されて福井のことを調べられていたそうです。

語り部の日常の活動を紹介します。

うらのまち「語り部」ふくい語り部の研修の様子を紹介しています。

コロナの影響でご案内するお客様の数は激減しています。しかし、これもチャンスの一つと捉え勉強に励んでおります。その様子などを紹介しています。



ガイドや歴史講座のご案内
歴naviふくい

「一乗谷朝倉氏遺跡」、「養浩館庭園」、「福井城址」などの福井市内の史跡や、ご希望のコースをご案内します。

語り部と学ぶ歴史講座のテーマ名も紹介されています。歴史ガイドの申し込みや歴史講座の講師依頼もこちらへ



笏谷石を訪ねて
YouTubeで紹介

福井市の足羽（あすわ）小山谷（おやまだに）加茂河原（かものがわら）若杉（わかすぎ）の笏谷石を辿るまち歩きを紹介しています。

日本遺産「石がたり福井・勝山」の中の笏谷石福井の小さな旅です。
足羽公民館⇒笏谷神社⇒露天掘り跡⇒堅堀跡⇒熊野神社⇒日野神社⇒泉通寺
⇒丹巖洞



ご存じですか？

浄得寺花見事件

井上 清一

福井城下眺望図（1801年）には足羽山から見える持宝院や木田の天王社（現木田神社）が描かれています。その中に浄得寺とその境内にあった系桜も描かれています。左の写真は浄得寺の今年の系桜の様子です。まだ小さくて当時の系桜程ではありませんが、当時の様子を偲ぶことはできます。眺望図にわざわざ桜が書き込まれているのですから、当時は浄得寺の系桜は有名だったようです。江戸時代の末期に、この桜にまつわる事件が起きました。

弘化3年（1846年）3月中旬の頃でした。明治維新の22年前になります。この系桜を見物するために、当時の改革派の家老岡部左膳（おかべさぜん）が数名の藩士を連れて花見見物にやってきました。お寺側はご家老様がわざわざお見えになったということで、それなりの接待をしたのでしょう。ところが、当時福井藩は多額の借金に苦しんでいて、儉約令が出ていました。藩主以下すべて日常の食事は一汁一菜、酒肴は三点までと定められており、わずかな饗応でもたちまち法に触れる恐れがありました。

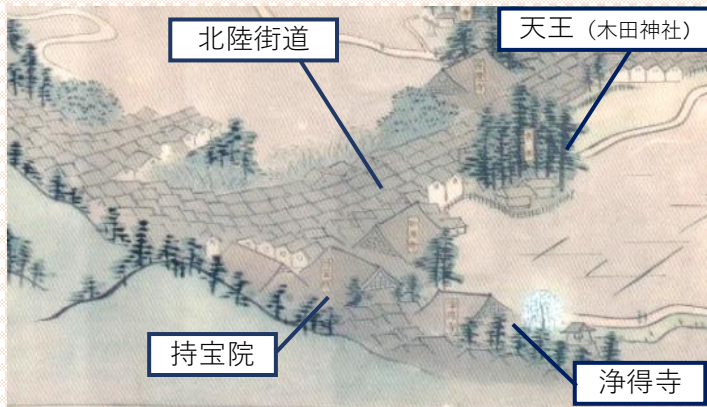
その年の5月下旬ころになって、にわかに儉約令違反が問題になってきました。保守派の家老、松平主馬（しゅめ）、酒井外記（げき）、狛帯刀（こまたてわき）らの策動かと思われます。慶永（春嶽）の改革をずっと支持してきた岡部左膳の罷免を求めてきました。しかし、19歳の慶永は頑張りました。この逆境を逆手にとって、岡部左膳に一日だけの謹慎を命じ、強硬派の家老有賀内記（ありがないき）を引退させ、その後釜に、笹治織居（ささじおりい）を付け、さらに改革派のエース中根雪江（なかねせつこう）を側用人に復帰させました。このようにして、福井藩の改革が少しずつですが進められていきました。

浄得寺さんの前をお通りになる時は、このような事件があったこと、そして、19歳の若き慶永（春嶽）が、この事件を逆手にとって藩政の改革を進めていったことを思い出してください。

参考文献：「正伝松平春嶽」、白崎昭一郎、東京新聞出版局



現在の浄得寺の枝垂桜



福井城下眺望図1801年（現在の西木田3丁目付近）

（編集後記）

今季より、配布先が広がりました。新しい読者の皆さんにも、興味津々の記事ができたらと意気込んでいます。

【発行】福井市歴史ボランティア「語り部」

（公財）歴史のみえるまちづくり協会 ☎.fax : 0776-35-0855
ブログ <http://fukuino.exblog.jp/>（記事の詳細はブログでチェック）
ホームページ http://www.fukui-rekimachi.jp/h_volunteer.html